



エコアクション21
認証・登録番号0000666

2011年度版

エコアクション21

環境活動レポート

= 自然と化学 =



大菩薩峠より大菩薩湖を望む

2011年9月

環境と化学のコーディネーター

ソーダニッカ株式会社

本社:東京都中央区 支社:大阪市北区
支店:札幌 仙台 静岡 名古屋 広島 高松 福岡

目 次

ご挨拶	1
環境方針	2
1. 事業の概要	3
2. “自然と化学”について	5
3. 2010年度の環境活動を振り返る	6
(1) 環境目標達成状況とその評価	6
－ 化学物質の管理（ケミカルセンター）	13
－ 営業部門の環境貢献活動	16
－ 地域の環境保全活動への参加	18
(2) 環境関連法規等の遵守状況	21
(3) 代表者による全体の評価と見直し	22
4. 2011年度の環境目標と活動計画	22
5. おわりに	23
6. 当社の環境管理組織	24
編集後記	25

表紙の写真について

「大菩薩峠」は剣士・机竜之介を主人公とする中里介山の小説*1でも有名な山梨県甲州市（旧塩山市）と北都留郡小菅村との間にある標高 1,897m の峠。

(*1 大正時代の連載小説)

「大菩薩湖(上日川ダム)」は東京電力が揚水発電のために作った人造湖で下池「松姫湖(葛野川ダム)」との水の往来で最大 80 万 kW の電力を発生させている。(撮影 2011 年 4 月 鹿島英敏)

ご挨拶

化学品専門商社としての企業活動を通じ、関係する全ての皆様から信頼されるソーダニツカを構築して、最重要課題と位置付けた環境保全活動に邁進してまいります。



当社の環境活動は、エコアクション21への登録日（2006年3月）より遡ること3年半前、環境省策定の「環境活動評価プログラム」への参加登録を契機にスタートし、今年で9年目を迎えております。

2010年度は、世界経済がリーマンショックからほぼ立ち直りを見せ始め、当社を取り巻く経営環境も改善してきましたが、年度最終月に日本は未曾有の大地震に襲われました。地震大国で対策も十分に講じていたはずの日本で、地震学者でも予想出来なかった千年に一度の大地震・大津波の前に成す術もありませんでした。さらに被災した原子力発電所からの放射能汚染が多方面に新たな難題を生むなど、政治経済をはじめ環境への取り組みまでも一変せざるを得ない年度になってしまいました。

この震災により、当社は仙台支店の事務所と七ヶ浜ケミカルセンターが被災し、一時的に業務が停滞しましたが、現在（9月）では事務所の移転が完了したほか、ケミカルセンターも通常業務に戻っております。復旧までには社内外から温かいご支援をいただき、厚く御礼申し上げますとともに、今後は東北地方の復興のため尽力する所存です。

さて、環境活動については、当社で二酸化炭素排出量の計測を開始した2000年度から11年間で23%削減することができました。その内、エコアクション21の参加登録からの9年間、継続的な環境活動で14%削減できたことは、その導入効果があったものと実感しています。但し、2010年度は新電算システムの導入作業があり、電力や紙の使用量が前年より多少増加しましたが、新システムの定着後は削減ペースに戻るものと考えております。

当社は日々の環境活動に加え、営業活動での環境課題の取り込みや清掃活動や植林活動などの社会貢献活動から役職員の意識は着実に高まりつつあり、今後も継続的に地道に環境活動を積み重ねることが会社全体の信頼を増すことにつながるものと確信しています。

2011年9月

代表取締役社長

柳 康洋

ソーダニッカは、化学品専門商社として日本の基礎産業である化学工業にたずさわっており、化学工業薬品、合成樹脂原料・製品、産業用機器類の販売を行っている。また、主力薬品については、安定供給策として保管業務も行っている。

これらの事業をグローバルに展開する企業として、企業理念に掲げる『信用を第一』に『社会に貢献する』企業でありつづけるために、地球環境保全への取組みをソーダニッカにおける最重要課題と位置づける。

環 境 方 針

ソーダニッカ株式会社は、企業経営を通じて地球環境へ配慮していくことを目的に、以下のことを実施していきます。

1. 事業活動を通じた地球環境保護への取組み

企業経営において環境負荷の低減に積極的且つ継続的に取り組んでいくために、自ら定めた目標に向かって全社員が自主的に行動する。また、営業活動においては環境負荷の少ない商品・技術・サービスを社会に提供するとともに、ケルセンターにおいては安全管理と環境保全に努めていきます。

2. 資源・エネルギーの効率的利用

資源・エネルギーの消費や廃棄物の排出状況等をチェックし、環境への負荷を常に認識し、Reduce(廃棄物削減)、Reuse(再使用)、Recycle(再利用)、新エネルギー等の活用、グリーン購入に取り組めます。

3. 環境関連法規の遵守

関連する環境法規制・基準及びその他の同意する要求事項を遵守します。

4. 継続的環境改善への取組み及び地域社会との共生

環境保全に関する目標を設定し、取組み結果を見直すなど継続的な環境改善に取り組むとともに、地域社会との共生を実践するために社会貢献活動に積極的に参加していきます。

5. 環境活動の定着と環境情報の公表

全従業員に対して、この環境方針の周知徹底を図るとともに、環境教育を計画的に行い、環境保全活動の定着、向上に努めます。また、環境行動計画及びその実施状況並びに環境関連情報については『環境活動レポート』に取りまとめて公表します。

更新履歴

2005年4月1日 制定

2008年4月1日 更新

2011年4月1日 更新

2011年4月1日

ソーダニッカ株式会社

代表取締役社長 柳 康洋

1. 事業の概要

企業名	ソーダニッカ株式会社 URL:http://www.sodanikka.co.jp
本社所在地	東京都中央区日本橋 3-6-2 日本橋フロント
代表者	取締役社長 柳 康洋
創立	1947年4月1日
資本金	37億6,250万円 (2011年9月1日現在) (東京証券取引所 第一部上場)

◆環境管理組織

環境責任者	常務取締役 鈴木 四郎
担当部署	ソーダニッカ EMS 委員会 事務局
環境担当者	江幡 光隆 (事務局・総括担当)
連絡先	電話 03-3245-1824 FAX 03-3245-1869 E-mail: m-ebata@sodanikka.co.jp

事業内容

化学品専門商社として、全国9カ所に事業所を配置し、主として化学工業薬品、石油化学製品、合成樹脂原料及び加工製品、電子材料、産業用機器等の仕入・販売を行っています。

また、主力化学品については、取引先への安定供給を目的として国内3カ所にケミカルセンター、1カ所に倉庫を保有しています。

◆事業規模 (売上高と役職員数の推移) (2011年3月31日現在)



◆エコアクション21 認証登録の対象範囲



◆事業規模 (2011年5月23日現在)

1. オフィス (賃借) *赤字は昨年から変更

	床面積(m ²)	役職員数(人)
本社(東京)	1,888	171
大阪支社	446	30
札幌支店	271	12
苫小牧営業所	57	4
仙台支店	182	11
名古屋支店	190	12
広島支店	197	11
高松支店	235	12
三島営業所	166	3
福岡支店	334	15
宇部営業所	129	3

※仙台支店 2011年5月23日事務所移転

◆事業規模 (2011年4月1日現在)

2. 静岡支店及びケミカルセンター (社有)

	事務所(m ²)	役職員数(人)	敷地(m ²)	倉庫(m ²)
静岡支店	204	12	4,070	827
釧路ケミカルセンター	75	6	7,770	—
七ヶ浜ケミカルセンター	84	4	10,040	1,011
大野ケミカルセンター	117	6	2,612	264

2. "自然と化学"について

・東日本大震災

3月11日の大震災では、当社の釧路と仙台・七ヶ浜ケミカルセンターが被災しました。釧路ケミカルセンターは一部設備の修理のみで2日後に再開できましたが、七ヶ浜ケミカルセンターは震源地近く、復旧までに多少時間を要しました。在庫品のローリー出荷再開までに2週間、船の受け入れ再開までに3ヵ月間を要しました。設備損傷や地盤沈下などの被害もありましたが、幸いケミカルセンターの立地が地形的に恵まれ、近隣と比べると奇跡的とも言える軽微な被害に止まりました。

・自然の脅威

今回の震災では、「自然の脅威」を改めて思い知らされました。人類はこれまでも自然災害に遭遇する度に英知を集めて克服してきた歴史がありますが、今回の震災で感じたことは、『人類はこれからも自然災害から逃れられるものではない。人類の自然災害への対処は、自然との対峙ではなく自然との調和の中から見出すものであり、科学技術を過信することなく自然の脅威を受け入れることが基本となる。』ということです。そのために設備の充実や災害対応訓練を行い、人命を尊重し設備被害をも最小限にすることに最善を尽くしていきたいと思えます。

・物流基地 (ケミカルセンター)

当社は物流基地を全国4ヵ所設置しており、近隣のお客様にローリーでカ性ソーダ（水酸化ナトリウム）や濃硫酸など毒劇物^{*1}などを輸送しております。こうした毒劇物を取扱うことから、商品の輸送時や納入時に重大事故を起こさないよう、輸送会社とともに安全会議や防災訓練を定期的に行うほか、設備の老朽化に対しても点検・補修等を定期的実施しています。

*1)毒劇物：「毒物及び劇物取締法」により規制される毒性や腐食性が強い化学物質



3. 2010年度の環境活動を振り返る

2010年度は2007年からの3ヵ年実行計画の最終年度でした。

- ・電力使用量：全社合計で2008年、2009年と3年連続増加。
- ・ガソリン使用量：社有車のハイブリッド車へ切替えにより減少。
- ・コピー用紙：新システム導入会議等で増加。
- ・環境営業：昨年度から取り組む太陽電池モジュールの販売が増加。

(1) 環境目標達成状況とその評価

環境目標

1. 二酸化炭素排出量の削減

全事業所から排出する二酸化炭素は、2010年度は2009年度比1%削減とし基準年度（2007年度）比で表記する。

<2010年度目標> 基準年度（2007年度）比で事務所毎に目標を定める。

【二酸化炭素】全事業所発生量の6.5%削減とする。（※2）

【電力】全事業所使用量の12.3%増加を許容する。（※1）

【ガソリン】全事業所使用量の12.3%削減とする。

二酸化炭素排出量はオフィス（事務所）とケミカルセンター（製造）に分けて管理しています。

（※1）2008年9月の本社移転に伴い、本社空調電力を管理項目に追加しました。

（※2）電力CO₂排出係数（単位：kg-CO₂/kWh）2007年の各電力会社の数値を使用し、他年度は再計算の上記載しました。

- ・北海道電力 0.517 東北電力 0.473 東京電力 0.425 中部電力 0.470 関西電力 0.366 中国電力 0.677 四国電力 0.392 九州電力 0.387

（※2）他石油製品のCO₂排出係数は「EA21ガイドライン(2009年版)」の数値を使用

2010年度 全社二酸化炭素排出量

【目標】 466 t-CO₂ △6.8%（2007年度比） △1.3%（2009年度比）

【結果】 480 t-CO₂ △4.0%（2007年度比） +1.7%（2009年度比）（未達）



・二酸化炭素排出量の推移

- 2000年度：625t 登録前3ヵ年パフォーマンスデータ収集
- 2002年度：605t 「環境活動評価プログラム」東京・静岡が参加登録
- 2003年度：605t 「環境活動評価プログラム」他全事業所が登録
- 2004年度：561t 「EA21パイロット事業認証審査」に登録
- 2005年度：537t 「EA21」全社統合認証
- 2007年度：500t 3ヵ年計画初年度
- 2008年度：495t 本社9月移転、空調電力を管理項目に追加
- 2010年度：480t 3ヵ年計画最終年度 $\Delta 23.2\%$ (2000年度比) $\Delta 14.4\%$ (2003年度比)

☆ 全社二酸化炭素排出量 = 事務所+ケミカルセンター 二酸化炭素排出量の合計

【二酸化炭素】

{	事務所	(割合 63%)	304 t-CO ₂	+3.1%(2007年度比)
	ケミカルセンター	(割合 37%)	176 t-CO ₂	$\Delta 14.6\%$ (2007年度比)

要因：新電算システム導入・2011年度導入により、新旧システムが稼働、残業等増
ハイブリット車導入・ハイブリット車導入ほぼ一巡、消費量は削減

2010年度 全社電力消費量

【目標】 628MWh +12.3% (2007年度比) $\Delta 1.1\%$ (2009年度比)

【結果】 632MWh +13.1% (2007年度比) $\Delta 0.5\%$ (2009年度比) (未達)



☆ 全社電力使用量 = 事務所+ケミカルセンター

事務所	(割合 71%)	447 MWh	+33.4%(2007年度比)	+0.7%(2009年度比)
ケミカルセンター	(割合 29%)	185 MWh	$\Delta 17.4\%$ (2007年度比)	$\Delta 3.1\%$ (2009年度比)

要因：事務所では新システム導入により残業・休日出勤の増加

2008年9月本社移転、空調電力を管理項目に含めたため増加

ケミカルセンターは全般的に出荷量の減少で使用電力量の減少につながる

*3月11日大震災の影響はあるが、年間を通した場合は軽微 (仙台支店)



☆ **大野ケミカルセンター 太陽光発電量** (2010年6月～2011年3月末)

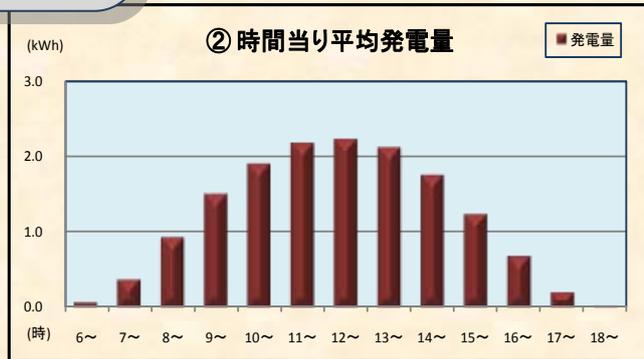
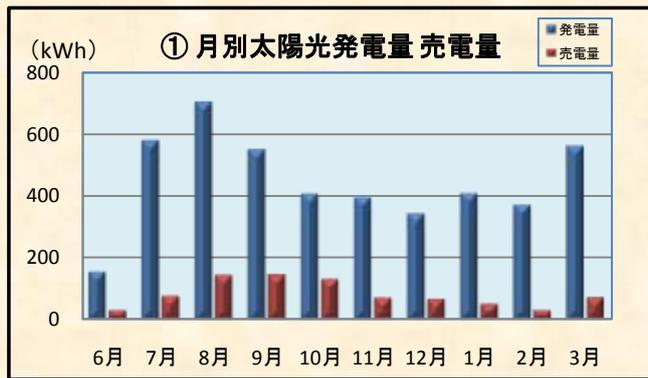
発電量累計 **4,277 kWh** 売電量累計 **785 kWh**

CO₂換算量 **2.9 t-CO₂**

【設置】2010年5月末日 【場所】大野ケミカルセンター (広島県廿日市市)

【能力】4.59kW 【製品】ソーラーフロンティア(株)製 CIS系

【電力会社】中国電力(株) *CO₂排出係数 0.677t-CO₂/kWh (2007年度)



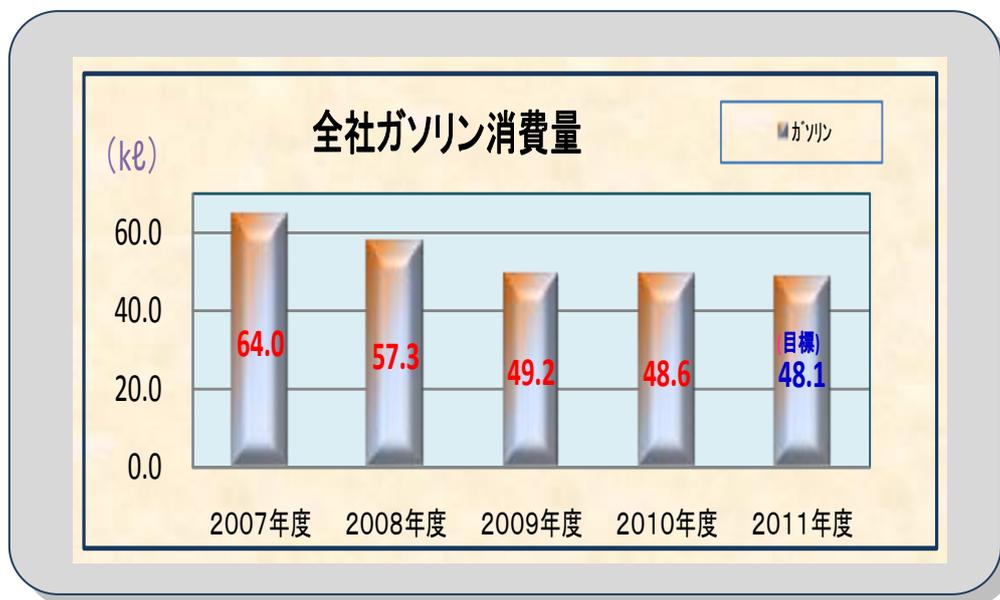
☆ **太陽光発電量 グラフの説明**

- ① 月別発電量
 - ・ **8月最大** 冬場は夏場の半分強
 - ・ 2010年4月～6月データはなし
- ② 時間当り発電量
 - ・ **12時から**の1時間が**最大**
 - ・ 7時から17時までが発電時間

2010年度 全社有車ガソリン消費量

【目標】 48.7 キロリットル $\Delta 23.9\%$ (2007年度比) $\Delta 1.0\%$ (2009年度比)

【結果】 48.6 キロリットル $\Delta 24.1\%$ (2007年度比) $\Delta 1.2\%$ (2009年度比) **達成**



要因：全社有車のガソリン消費量は、全事業所において、ハイブリッド車への切り替えにより減少となりました。



意識付けのためのステッカー

2. 紙使用量削減と再資源化の取組

(1) 紙使用量は、2010年度は2009年度比**1%**削減し、基準年度（2007年度）比で記載する。

コピー用紙は、全事業所、全量「環境配慮型製品」とする。

※「環境配慮型製品」とは、当社「グリーン調達ガイドライン」を満たした商品とする。

(2) 排出する紙資源は種類ごとに計量し、リサイクルに供する。

(3) 機密を含む長期保存書類は、100%リサイクルに供する。

<2010年度目標> 基準年度（2007年度）比で事業所ごとに目標を定める。

【紙使用量】全事業所として基準年度（2007年度）比**12.4%**削減とする。

2010年度 全社コピー用紙使用量

【目標】 **8.4 t** $\Delta 12.5\%$ (2007年度比) $\Delta 1.2\%$ (2009年度比)

【結果】 **8.9 t** $\Delta 7.3\%$ (2007年度比) $+4.7\%$ (2009年度比) **未達**



要因：コピー用紙は、2011年度から導入する新システムの打合せや準備等の使用により大幅増加。新システムが定着後に使用が減少する予定。



3. 廃棄物削減と分別回収

- (1) 排出する一般ゴミは分別・計量し、再資源化、削減に努める。
- (2) プラスチック類は計量し、再生可能なものはリサイクルに供する。



2010年度 全社資源ゴミ排出量

【目標】 17.9 t ±0.0% (2009年度比)

【結果】 18.3 t +2.2% (2009年度比) **未達**

【資源ゴミ】

紙資源 (割合 92%) 16.8t +1.2% (2009年度比)
 プラスチック (割合 8%) 1.5t +7.1% (2009年度比)

要因: コピー用紙使用増で、紙資源排出量も増加。

長期保存書類は、全ての事業所でリサイクル処理に出しています。



4. 節水と排水管理

- (1) 賃借オフィス(事務所)においては、ビル管理会社等と協力して節水に取り組む。
- (2) ケミカルセンター、社有オフィスは、製品稀釈用水と生活水を区分管理し、生活水は前年実績以内に使用量を抑える。
- (3) ケミカルセンターは、水質汚濁防止法の特定施設基準（非該当）を自主基準として管理し、排水量を把握する。

【結果】 ケミカルセンター生活水使用量 1,076t 前年比 +10t
ケミカルセンター排水量 1,529t 前年比 △194t 削減

要因：2010年度の生活水は昨年と比較してやや増加、排水量は大幅減少となった。



5. グリーン購入

- ・ 印刷物、事務用箋、封筒、名刺などは環境配慮型製品を使用する。

【結果】 グリーン購入はガイドラインに従って管理

紙、その他オフィスで使用する文具は、グリーン調達ガイドラインに則り購入しています。



環境に優しい商品を購入



再生紙・紙窓付封筒

【全体評価】

オフィス電力：2010年度の消費電力は新システム導入検討作業、確認作業によって残業、休日出勤が増加し昨年に比べて増加となりました。空調電力も同様に増加しました。

ガソリン消費：ハイブリッド車への切替が一巡し、ガソリン削減は今後はいかにエコドライブを継続させるかにかかっています。

コピー用紙消費：新システムや内部統制検討用の印刷物が増加、裏紙使用やプロジェクター使用を強化するも使用増となっている。

廃棄物と分別：全社的に紙ゴミの分別回収と計量を実施しています。プラスチックゴミも分別回収を継続している。

節水と排水：オフィスの節水はビル管理会社と協力し取り組んでいます。ケミカルセンターでは無駄な洗車や散水を取り止めています。

グリーン購入：コピー用紙は「グリーン調達ガイドライン」に則り環境配慮型製品を使用しています。

6. 化学物質の管理（ケミカルセンター）

- (1) 化学物質の管理は、社内規程（手順、管理基準等）に従って行う。
- (2) ケミカルセンターでは、防災マニュアル等に従い、環境保全、災害防止に努める。

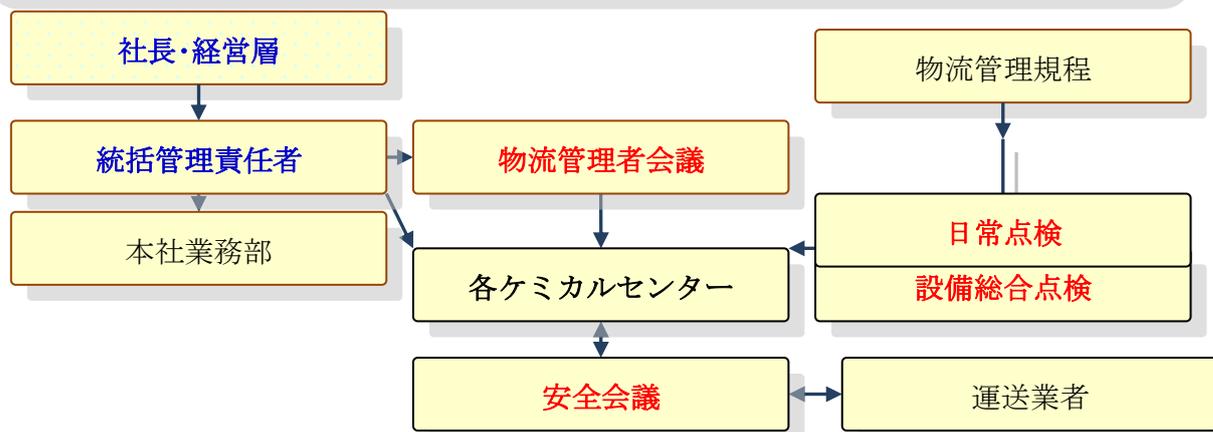
ケミカルセンターでは物流管理規程に従い、日常点検で設備の安全性の有無を確認し、運送会社を含めた毎月の**安全会議**で基地内の問題点を把握、取引先との情報の交換、各事業所の取り組み内容報告や、通達事項の伝達等により、安全管理に努めております。

1年に一度、地域との**防災訓練**を実施し災害時の危害防止に努めています。

他事業所でも年一度以上、**防災訓練**に参加し安全意識を忘れない様にしております。

2010年度は各ケミカルセンターにおいて初めての**設備総合点検**を行い、老朽化した設備を見直し更新し未然防止に努めております。

また1年に一度全社で**物流管理者会議**を実施し、安全面の情報の共有化しています。



☆☆☆ ケミカルセンターの防災訓練 ☆☆☆

釧路ケミカルセンター

<2010年10月16日(土)> 見学：2名

<災害想定> 十勝沖大地震発生「大規模津波防災総合訓練」(国土交通省主催)



<2010年11月24日(水)> 参加：支店長・他4名、運送業者4名

<災害想定> 硫酸ローリー車へ、乗用車が衝突し硫酸が漏洩。



(Eカード=緊急連絡カード)

七ヶ浜ケミカルセンター

<2010年9月22日(水)> 参加：支店長・他3名、運送業者5名

<災害想定> か性ソーダローリー車の積込バルブ閉止忘れ漏洩し、ホース残液で運転手が被液。



静岡支店

<2010年9月1日(水)> 支店長・他7名、運送業者5名

<災害想定> 地震により硝酸アルミタンクのバルブが破損し薬品漏洩。



大野ケミカルセンター

<2010年6月18日(金)> 支店長・他10名、運送業者12名、消防署員1名、他1名

<災害想定> 構内において、設備工事溶接作業の火花がポリ缶に引火し火災発生。



<2010年6月9日(水)> 当社2名、消防署員多数、内外輸送自衛消防隊員多数

<実施場所：内外輸送(株)広島支店> 消防訓練

<災害想定> 地震発生、震度5 エタノールタンク(990kl)が損傷、引火。

<2010年11月26日(金)> 当社2名、石油コンビナート関係者多数

<実施場所：江田島市濃美町鹿川周辺> 消防訓練

<災害想定> 地震発生、震度6弱 重油漏洩引火。か性ソーダも漏洩。

☆☆☆ 営業部門の活動を紹介します ☆☆☆

7. 営業部門の環境貢献活動

化学分野における 3R 推進、環境配慮型の製品・技術の開発・普及に努め、その取組については環境活動レポートで公表する。

また、PRTR 法該当化学物質については年間販売量の把握に努める。

当社は 3R（リデュース、リユース、リサイクル）活動を推進しております。今回は**高機能ゴミ袋**の紹介と、**PRTR 法該当化学物質**についての対応を説明させていただきます。

— 高機能ゴミ袋 —

1. ごみ袋

家庭から排出する**一般廃棄物**（ごみ）の処理は、廃棄物処理法により**市町村で処理**することが定まっていますが、昨今、家庭から排出するごみの量が増加、ごみ処理税公平負担の原則と焼却場の設置の難しさや、焼却後の焼却灰の埋立場の新設難から、ごみの排出量を減らすために、ごみ処理を**有料化**する**市町村**が増えております。

ごみ袋の材質はポリエチレン製が主流で、市町村は購入したごみ袋にごみ処理税の一部を上乗せし、**有料指定袋**として地域内の小売店やスーパーを通じて市民に販売しています。当社では、その自治体向けの有料指定ごみ袋の販売に力を入れております。

2. 機能性ごみ袋（メーカー：大倉工業（株））

① 燃焼促進機能付きごみ袋 「フェロキサイド」

<特徴>燃焼促進機能付きごみ袋を使用することで、焼却場の焼却炉内温度の低下を避けることができ、**ダイオキシン生成抑制、残灰の重金属溶出抑制、残灰量の低減**ができます。

<欠点>現在主流のガス化溶融炉タイプには不向き、ストッカー式等の焼却炉を使用している自治体へ使用推奨してください。

② 光学特性を利用した特殊顔料入りカラス対策ごみ袋 「カラスシャット」

<特徴>カラスの目には不透明化して見える特殊顔料を添加することで、ごみ袋の中味を目視できないため、袋を破る被害を減らすことができます。



某市指定袋
「フェロキサイド」



某町指定袋
「カラスシャット」

—PRTR法該当化学物質について—

「PRTR 法該当物質年間販売量について」

- ※ 2010 年度の PRTR 法該当化学物質の**排出実績はありません**でした。
- ※ 2010 年度の PRTR 法該当化学物質の**販売量**を把握しました。
 - ・ PRTR 法：「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」（平成 11 年法律第 86 号）
 - ・ 該当化学物質：PRTR 法該当物質（第一種 462 物質、第二種 100 物質）
 - ・ 調査物質を PRTR 法該当化学物質とした理由は「エコアクション 21 ガイドライン 2009 年版」による。

【結果】

- ・ 第一種指定化学物質：80 物質が該当（462 物質中）
- ・ 第二種指定化学物質：2 物質が該当（100 物質中）
- ・ 販売量：社外秘のため報告できません。 ※法律的な報告義務なし。

環境活動 番外編

【第五回 東京マラソン】*フルマラソン(42.195km)

- ・ 2011 年 2 月 27 日(日) 都庁～東京ビッグサイト
- ・ 社員 2 名(柴田・三神)が参加し、タスキで環境活動をアピール
両名とも無事完走 ※参加人数：36,000 人
- ・ 応援団(多数)もタスキを掛けて、コースの本社前でアピール
※ 東京都中央区役所「ポイ捨て禁止条例」ボランティア活動
「まちかどクリーンデー」タスキの色・文字・文言の使用許可を取り、当社タスキを作成

【赤穂シティマラソン】大阪支社社員 4 名がタスキを掛け参加

- ・ 2011 年 1 月 30 日(日)



柴田選手



三神選手



応援団



赤穂シティマラソン

—事業所ごとの環境保全活動紹介—

8. 地域の環境保全活動への参加

事業所ごとに、地域環境活動に参加、協力や支援を行う。

2010年度も継続して全事業所で環境保全活動を実施しました。

本社：「まちかどクリーンデー」
2008年～ 毎月10日



本社：「ゴミゼロクリーンデー」
2010年5月30日



大阪：「クリーンおおさか 2010」
2010年11月1日



札幌：「セーフティ&クリーン大作戦」
2010年6月3日



苫小牧：「王子製紙 植樹祭」
2010年6月6日



釧路：「海の日記念海岸清掃」
2010年7月9日



仙台：「広瀬川1万人プロジェクト」
2010年9月25日



七ヶ浜：「東宮浜一斉清掃」
2010年7月15日他



静岡：「田子の浦港まつり清掃」
2010年7月11日



名古屋：「なごや西の森づくり 植樹祭」
2010年10月24日



広島：「コミセロ・クリーンウォーク」他
2010年6月6日



高松：「中央通り一斉清掃」4回
2010年6月3日～



福岡：「ラブアース・クリーンアップ 2010」2回
2010年6月6日～



《その他の環境活動》

静岡：「富士山 3776 自然林復元大作戦」
2006 年～ほぼ毎月



植松氏：「富士山自然の森づくり」の指導員資格を 2006 年に取得し、ほぼ毎月、富士市内の国有林植林ボランティア活動に参加している。

- ・ 2008 年には静岡支店員も植林に参加

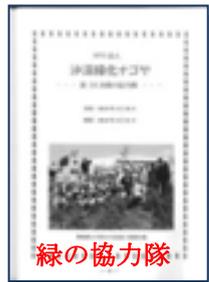
植松氏談：私が 150 年後の富士山麓広葉樹林を復元させる。
150 年後を見ていて欲しい。



名古屋：「沙漠緑化ナゴヤ」
支援活動



事務局名簿



緑の協力隊

【NPO 法人沙漠緑化ナゴヤ】

- ・ 1997 年 太洋基礎工業(株)会長 豊住満氏が「日本沙漠緑化実践協会ナゴヤ支援の会」を設立
- ・ 1998 年「沙漠緑化ナゴヤ」と改称
- ・ 2008 年「環境大臣賞」受賞

<活動内容>

- ・ 1998 年から毎年、中国の高原に地元の小学校と協働で植樹作業を実施

<当社の活動>

- ・ 会員として運営管理サポートを实践
- ・ 現地植樹にも定期的に参加

全社：「eco 検定試験」受験推奨

第 1 回～第 9 回 「環境社会検定試験*1」(eco 検定)

<エコピープル：合格者>

- ・ 合格者累計 (37 名、1 名退職)

当初は個人的な趣味の範疇であったが、第 3 回以降、環境教育の一環として EMS 委員会が推奨し、受験料を負担している。

*1 東京商工会議所 主催 第 1 回 2006 年 10 月 15 日



合格証

(2) 環境関連法規等の遵守状況(最近3カ年)

「環境関連法規」については、4月に「ecoBRAIN*2」で改訂内容を確認し「遵守状況チェックリスト」を改訂し、毎年6月にチェックリストを確認しました。

その結果、全部店において、違反行為、行政等からの指導、利害関係者からの苦情及び訴訟は全くありませんでした。

【当社に該当する環境法令集】

法 令	目 的
＜ケミカルセンター関係＞	
[水質汚濁防止法]	有害物質の排水、浸透防止
[廃棄物処理法]	廃棄物の処理
[労働安全衛生法]	役職員の健康と安全確保、化学物質の取扱い
[消防法]	建物、危険物の管理
[毒物劇物取締法]	商品製造・管理、安全輸送
[海洋汚染防止法]	基地、船受入時汚染防止
＜営業関係＞	
[毒物劇物取締法]	毒物劇物の輸送・販売、
[高圧ガス保安法]	高圧ガスの輸送・販売
[消防法]	危険物の輸送
[化管法] (PRTR 法)	MSDS(商品安全情報表) の配付
[化審法]	新規物質の販売
＜貿易関係＞	
[毒物劇物取締法]	毒物劇物輸送時の安全・標記
[化審法]	一般化学物質の輸入数量の把握・報告
＜総務関係＞	
[労働安全衛生法]	役職員の健康と安全確保
[健康増進法]	事務所内分煙
＜全社関係＞	
[省エネルギー法]	エネルギー使用の効率化

【2010年度登録簿への追加】

新たに追加した項目はありません。

【2010年度登録簿から削除】

新たに削除した項目はありません。

*2 : 「ecoBRAIN」 第一法規(株)の「ネット環境法令管理システム」

(3) 代表者による全体の評価と見直し

『環境方針』については、資源・エネルギーを効率的利用の項目に「新エネルギー等の活用」の文言を追加し、活動実態に則した方針とする。

『実施体制』については、組織変更並びに人事異動に伴い環境活動の実行並びに結果と評価の見直しがやり易い体制を構築する。

『環境経営マニュアル』については、事業所規模と管理項目一覧表「別表1」の新事務所の規模（床面積）を見直しする。

4. 2011年度の環境目標と活動計画

《環境目標》

1. <二酸化炭素排出量削減>

- ・2011年度の全事業所の排出量を **1%削減**（2010年度比）
- ・中期目標（3カ年）は2013年度迄に **3%削減**（2010年度比）
- ・長期目標（10カ年）は2020年度迄に **10%削減**（2010年度比）

2. <紙使用量と再資源化>

- ・2011年度の全事業所の使用量を **1%削減**（2010年度比）

3. <廃棄物削減と分別回収>

- ・紙資源は種類ごとに計量しリサイクル原料にします。
- ・長期保存書類は、100%リサイクル原料にします。
- ・プラスチック類は計量し、可能なものはリサイクルに供します。

4. <節水と排水管理>

- ・賃借ビルでは、ビル管理会社と協力し節水に努めます。
- ・ケミカルセンターでは製品用と生活水を分けて把握管理をします。
- ・ケミカルセンター、静岡支店は、排水量を把握し、排水基準を遵守します。
- ・生活水と排水の使用量、排出量は原則 **2010年度を超えない**とします。

5. <グリーン購入>

- ・印刷物、封筒等は環境配慮型製品を使用します。

6. <化学物質の管理>

- ・化学物質の取扱いは安全管理、環境保全に努めます。

7. <営業部門の環境貢献活動>

- ・3R（削減・再使用・再原料）の推進及び新エネルギー等の活用を積極的に提案します。

- ・環境配慮の製品・技術の**開発・普及**に努めます。
- ・取組み内容を環境活動レポートで**公表**します。
- ・PRTR 法該当化学物質の年間販売量を**把握**します。

8. <地域の環境保全>

- ・事業所ごとにボランティア活動などに参加・協力・支援をし、地域社会との共生を**推進**します。

《マニュアルの変更点》

- ・『環境方針』に「**新エネルギー等の活用**」の文言を追加。
- ・人事異動に伴い、環境責任者及び事務局員、部門長、環境担当者、エコリーダー環境委員が変更。
- ・組織変更に伴い、東京環境委員会の部門を 7 部門→8 部門
(業務・海外部門 → 業務部門、海外事業部門に分割)
- ・仙台支店が震災による被災のため、移転 (5 月 23 日)

5. おわりに

2010 年度の二酸化炭素排出量が前年比増加となりました。原因は新システム導入や昨年冬の寒波等あるものの、未達となって残念に思います。

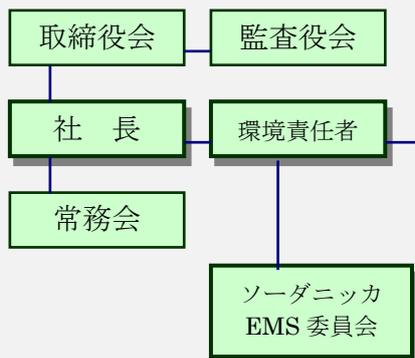
2009 年度の「環境活動レポート」の最終章で国の省エネ対策の施策の行き詰まりについて触れましたが、2011 年度は凶らずも、震災・津波・原子力発電所事故のため、『電力使用制限令』(正しくは電気使用制限等規則)という『1974 年第一次石油ショック』以来の施策が発動されました。ただ当時とは違い、ネオン看板の消灯とか、深夜放送が中止とかではなく安心しました。



山梨県甲府市の桃畑
(撮影 2011 年 4 月 鹿島英敏)

ソーダニッカ㈱ 環境管理組織

(2011年度)



東京環境委員会



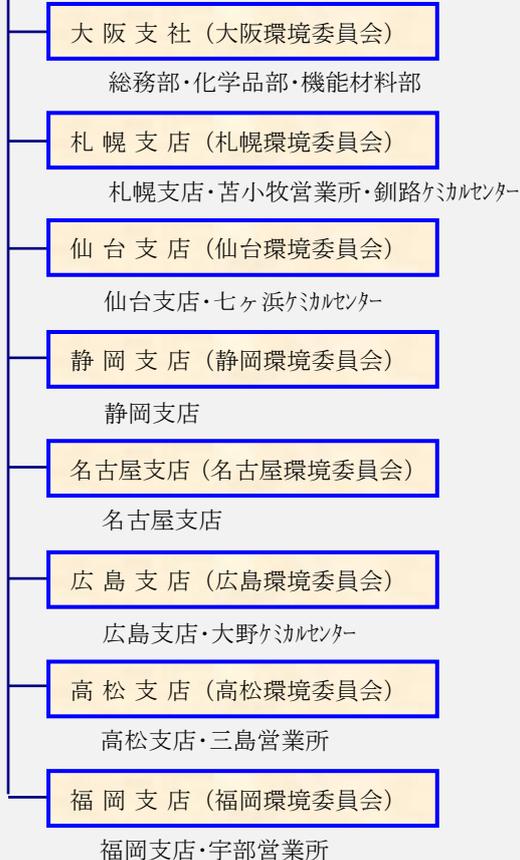
内部環境監査制度

所定の研修を受講し、試験に合格した者の中から社長に任命された監査員が担当する。

内部環境監査要領により各部門（支社、支店を含む16部門）ごとに年1回以上実施する。

監査員は、社長、環境責任者の直轄となっている。

東京環境委員会は、本社8部門の集合体とし、各部門の目標及び本社全体の目標達成に向けて連携していく。



編集後記

これまで事務局として環境活動を担ってきましたが、3月11日の大震災を見て、活動の意義について考えさせられてしまいました。

環境活動は、地球及び人類の未来のための活動ですが、実行するにはそれなりの基盤の安定が必要ではないかと認識させられました。

今回の地震・津波は被災地域が広範囲に渡り、被災した企業、避難民も多数に上り、多くの避難所への給水・食料配給も遅れ、空腹で他人のことなど考えるどころではなかったと思います。

食が満たされ、生存が保障され、回りが見えるようになって、やっと自分以外の被災者の存在に気が付き、ボランティア精神が現れ、活動が出来るようになります。

自分がもし被災者の側であったら、自分にボランティア精神が目覚めたかどうか、単に政府を非難するだけかもしれません。

悲しいかな人間は微力であり、今まで積み上げてきた科学技術すら、自然の脅威には到底太刀打ちできませんし、自然は決して人類に対して優しくもありません。

だからこそやっぱり、自分のためだけでなく、常に未来のために環境活動を続けていかなければならないのだと思います。

M.E. (事務局)

環境活動レポート (2011年度版)

発行 2011年9月1日

ソーダニッカ株式会社 EMS委員会

〒103-8322 東京都中央区日本橋3-6-2 日本橋フロント

電話 : 03-3245-1824 fax 03-3245-1869

URL : <http://www.sodanikka.co.jp>

E-mail : m-ebata@sodanikka.co.jp

人に、自然に、やさしい環境を
化学のチカラによって
明るい未来を創造します。

人に美しい自然を子供たちに
残すため、私たちは
人と環境との調和を
化学の多様性を駆使し、
チャレンジしてまいります。



 **ソーダニッカ株式会社**

東京都中央区日本橋 3-6-2 TEL03-3245-1824

<http://www.sodanikka.co.jp>

この環境活動ポ-トは、再生紙を使用しています。